

O-2 石巻市雄勝町大浜地区 2011年11月20日(日)

報告者名	星 洋和	被調査者生年	1950年
調査者名	橋本 裕之	被調査者属性	雄勝法印神楽保存会員、元青年部長
補助調査者	星 洋和		

被災時の状況

被災時は石巻市内（石巻市中心街のことか？）にいて、2日間、自宅に帰れなかった。石巻で義兄が入院していたので、その見舞いに行っていた。帰りたくても帰れなかった。13日の午後、林道の土砂崩れをよけて雄勝まで通れるようになってから帰った。湯殿山（バイパス側）で、1日過ごした。次の日は、石巻線伝いに歩いて、蛇田のおじさんの家に行った。その時も1日泊まった。そこで車を借りて、普段は通らない真野林道を通って帰ってきた。

帰ってきてからは消防活動をしていた。家は、50年ぐらいの家だったから潰れると思っていたが、大丈夫だった。妻（1954年生まれ）がいなくなったと分かったのは3日目。子どもたちは、自分と妻と一緒にいると思っていた。息子たちと一緒に情報を集めていたが、見つからなかった。飯野川の遺体安置所に行ってもいなかった。

妻は、メンバーではないが、嫁に来てから1市9町で行っていた神楽大会に参加していたが、近年は体調を悪くして、行ってなかった。妻には、神楽の衣装のほころびを縫ってもらっていた。前は、会長の奥さんがやっていた。会長の奥さんも、今回亡くなった。

ガソリンがないから、使えない車からガソリンを抜き取って、使える車に渡していた。

（奥さんは、修理以外に携わっていたか？という質問に対して）携わっていない。神社には、自分の家のように入って行った。昔から入っているから。

獅子振りについて

（今後、地区の行事ができるか？という質問に対して）

そもそも、獅子頭が（流されて）ない。地区で買おうにも、金を分けてしまったから、買えない。（新しく獅子頭を買うのは？という質問に対して）それでも問題はない。（獅子頭は）1つでもいい。（春祈祷が）あるとしたら仮設（で行う）。笛・太鼓・獅子がいればやる。笛・太鼓・獅子は地区ごとに違う。

今は、子どもたちに自分が笛を教えている。笛は一度廃れてなくなってしまったが、古いカセットテープがあったのでそれを流していた。隣（の地区か？）に神楽をやってて笛が上手い人がいたので、そのカセットの笛を覚えてもらって、その人に演奏を頼んでいた。笛自体は、神楽の物とは違う。獅子舞は、自分の父親が青年団だった時に、別の地区（野蒜）から持って来たようなものらしい。なので、他の地区の獅子舞のリズムとは違う。笛がないと始まらない。その後は、小太鼓が主導権を握る。

浜祭

青年部の行事として、行われていた。立浜から始まって、集落を周った。青年部が、民謡を歌ったり踊ったりしながら、一軒一軒を周る。春祈祷と違って、獅子たちの移動が早い。家に入る時は、獅子がまず清めるために入り、それに続いて宮司が入る。獅子は家に入る時は、縁側から入る。玄関側から入ることはあまりないが、新築の家は玄関から入る。

ここ 20 年以上は、人がいないから、やっていない。